令和８（２０２６）年度

「運営に関する計画」

〈中間評価〉

大阪市立まつば小学校

令和８（２０２６）年１０月

（様式１）

大阪市立まつば小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

・　本年度は統合６年目となる。３つの地域が１つの校区を構成しているが、地域同士のつながりも深まり、学校を中心としての連携が築かれ、安全の見守り体制も整備されてきている。しかしながら、家庭での生活環境が厳しい児童が多く見られる。保護者が生活することに精一杯で子どもに愛情をかけてやれない家庭、保護者が朝早くから夜遅くまで仕事をしているため望ましい生活習慣が身についていない家庭、保護者が自分中心の生活をしているため子どもの遅刻や欠席が目立ったり連絡が取れなかったりする家庭などが多い。したがって、規則正しい生活リズムや家庭学習の習慣が身についている児童は少ない。また、中国をはじめとするアジア諸国から渡日により編入してくる児童が急激に増えており、保護者も子どもも日本語が難しい場合が多く、ほぼ全学年にわたって在籍している。担任や支援担当の教員によりサポートに努めてはいるものの、それだけでは十分とはいえない。自尊感情が持てなかったり、自己表現がうまくできなかったり、自己中心的な行動をしてしまったりする児童も少なくない。遅刻や欠席が目立ったり不登校であったりする児童も数名いる。児童一人一人が抱えている課題や家庭状況をしっかりと把握したうえで保護者と連絡を取り合ったり、複数の教職員で関わったり、地域関係諸機関と連携をしたりと、きめ細やかな対応を行っている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

・　昨年度、６年生では、全国学力学習状況調査の結果は全国平均、大阪市平均を大きく下回ったが、大阪市学力経年調査は大阪市平均との差を縮めることができた。大阪市学力経年調査の全体の結果を大阪市平均と比べると、４年生の算数科以外は下回った。しかしながら、一昨年度と経年比較をすれば、どの学年にも向上がみられる教科があり、特に国語科は全学年が一昨年度を上回った。宿題についてはほとんどの児童がやっているが、自主的に家庭学習をする習慣は身についていない。基礎・基本の定着が不十分であったり、問題意識が低く意欲的に取り組めなかったりする児童も多い。３年間話し合い活動の研究に取り組んできた成果として、自分の考えを発表したり友だちの考えを聞いたりする力が身についてきたが、互いの考えを交流しあうことで、自分の考えを深めたり広げたりすることはまだまだ十分であるとはいない。学習に対する関心や意欲を高められるように、様々な学習活動の中で話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、ＩＣＴ機器を効果的に活用できるようにしている。また、集中力を高められるように、体幹を鍛え姿勢をよくすることを意識できるような取り組みも進めている。人権総合学習を中心にした教育活動についても、計画的に取組を実践し、道徳心・社会性の育成と表現力の向上に努めている。

【学びを支える教育環境の充実】

・　授業において、デジタル教材を活用した学習を日常的に取り入れたり、調べ学習や意見交流、学習のまとめ等にICT機器を活用した学習を工夫したりしながら取組を進めてきた。校内での取組をいっそう推進していくとともに、学習用端末を活用した家庭学習も進めていく必要がある。家庭での情報教育機器の環境にも差があり、保護者の理解や協力も必要不可欠である。学校からの情報発信と啓発活動を積極的に行いながら、より効果的な活用に引き続き取り組んでいく必要がある。また、教職員の時間外労働時間については、全体的に減少傾向が見られるものの、個人差や時期によっての差が見られ、仕事を持ち帰ることがあるのが現状である。年次休暇等を有効に取得しながら、働きやすい環境を維持することが大切である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「思いやりの気持ちをもち、友だちを大切にしている」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を７５％以上にする。（昨年度結果６２.８％）　☞ **7月結果５２．４％**

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「自分にはよいところがある」と肯定的にとらえる児童の割合を８５％以上にする。（昨年度結果８３.２％）

☞ **7月結果８２．７％**

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学習アンケート）において、「地域や西成区の学習を進めていくことで、自分たちの住んでいる地域や西成区が好きになった」と「韓国・朝鮮をはじめとした様々な国や地域の学習は好き」と考える児童を８５％以上にする。（昨年度結果８１.７％）

☞ **未実施**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学校生活アンケート）で「学校の授業はわかる」と肯定的にとらえる児童の割合を８８％以上にする。（昨年度結果８７.２％）

☞ **7月結果８２．６％**

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学校生活アンケート）で「正しい姿勢で学習することは大切だと思う」と肯定的にとらえる児童の割合を９０％以上にする。（昨年度結果９０.９％）

☞ **7月結果８８．３％**

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「運動をするのが好きである」と肯定的にとらえる児童の割合を８５％以上にする。（昨年度結果８５.６％）

☞ **７月結果８４．６％**

【学びを支える教育環境の充実】

○　令和１１（２０２９）年度末の校内調査（保護者アンケート）において「学校はICT（タブレット・デジタル教科書・プロジェクター等）を活用した授業をすすめている」と肯定的にとらえる保護者の割合を９３％以上にする。（昨年度結果９１.０％）　☞ **７月結果９１．１％**

○　令和１１（２０２９）年度の教員1か月あたりの平均時間外労働時間を、令和７（２０２５）年度より５時間削減する。（昨年度結果　全教員平均２７時間２７分）

☞ **４～８月　全教員１か月平均２２時間２分**

２．中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○　小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。（昨年度結果８２％）　☞　**7月結果８３％**

○　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○　小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。（昨年度結果７１％）　☞　**7月結果８３％**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。

（昨年度結果　国語　４年：＋1.0　5年：＋0.8　6年：＋2.6
算数　４年：－1.4　5年：－1.3　6年：＋1.1）

☞　**未実施**

○　小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。（昨年度結果７６％）　☞　**未実施**

○　小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。（昨年度結果７９％）☞　**未実施**

○　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。（昨年度結果７１％）　☞　**未実施**

○　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。（昨年度結果８３％）

☞　**未実施**

【学びを支える教育環境の充実】

○　小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を７０％以上にする。（昨年度結果６５％）　☞　**未実施**

○　令和８（２０２６）年度末において、1か月あたりの平均時間外労働時間が月３０時間以下の教員の割合を７０％以上にする。（昨年度結果６８％）　☞　**４～８月：８１％**

○　年次有給休暇等を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上にする。（昨年度結果８２％）

【その他】

３　本年度の自己評価結果の総括

（様式２）

大阪市立まつば小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 ○　小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。（昨年度結果８２％）　☞　７月結果８３％ ○　年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○　小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。（昨年度結果７１％）　☞　7月結果８３％	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号１　安全・安心な教育環境の実現】 児童が安全に安心して登校できるよう、保護者と連携をとりながら、児童に寄り添ったきめ細やかな対応を行う。また、児童や家庭へより適切な支援ができるよう、地域関係諸機関とも連携をとりながら迅速にきめ細やかな対応を行う。	
指標 ・　児童の学級での様子や家庭環境、現状の把握に努め、月に１回、児童理解研修や２部会（生活指導部会・特別支援教育部会）で学校全体として共通理解を図る。連絡のない欠席や遅刻に対して、可能な限り早急に連絡を取り、欠席等の理由を確認し、必要に応じては、教職員だけでなく、ＳＳＷやＳＣ、こども相談センター、主任児童委員等の関係諸機関と連携しながら登校支援を行う。 ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（保護者アンケート）において「学校は、保護者や地域の皆様の願いを受け止めて、教育活動を進めている」と肯定的にとらえる保護者の割合を９３％以上にする。（昨年度結果９３％）　☞　7月結果９４％ ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「学校のきまりを守っている」と肯定的にとらえる児童の割合を９３％以上にする。（昨年度結果９２％）　☞　7月結果９０％ ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「災害時（地震や火災など）にとるべき行動がわかっている」と肯定的にとらえる児童の割合を９５％以上にする。（昨年度結果９４％）　☞　７月結果９５％ ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「スマホの危険性や適切な使い方について理解している」と肯定的にとらえる児童の割合を９２％以上にする。（昨年度結果９１％）　☞　７月結果９３％	B
取組内容②【基本的な方向番号２　豊かな心の育成】 人権総合学習の取組を中心に、自分の地域やくらしを見つめ、自分の生き方を考え、豊かな心を育てる。	

指標 ・　各学年の発達段階に応じた人権総合学習の年間指導計画を作成し、計画的に実施する。(人権・部落問題学習、在日外国人・多文化共生教育、インクルーシブ教育、反戦・平和教育) ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「思いやりの気持ちをもち、友だちを大切にしている」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。（昨年度結果６２．８％）　☞ **7月結果６７％** ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において、「地域のことを調べたり、地域の人に教えてもらったりするのは大切だ」と肯定的に考える児童を８０％以上にする。(昨年度結果８０％)　☞ **7月結果８６％**	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

・児童理解研修を通して、配慮の必要とする児童の学校全体へ共通理解を図ってきたが、日々、何が起きた時には全体で把握できるように、報告・連絡を行うようにしていく。

・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者や地域の皆様の願いを受け止めて、教育活動を進めている」と肯定的な回答が 94%と目標を上回っている。今後も、学校・保護者・地域の方と継続した連携を図っていく。

・「学校のきまり」を守れていない児童もいる。学校全体で指導が徹底されていないのが現状である。

・「災害時にとるべき行動がわかっている」と肯定的な回答は 90%を超えている。防災教育が児童一人一人に浸透していきつつある。

・スマホの使い方など、機会を設けて児童に指導している。アンケートも数値的には良い結果が出ているが、適切に使えていない児童も見受けられる。

取組内容②

・４月に人権総合学習の年間指導計画を作成し、その計画に沿って実施できている。

・仲間づくりやいじめを許さないという指導が、「思いやりの気持ちをもち、友だちを大切にしている」の目標を上回るアンケート結果にもつながっている。

・各学年に合わせた内容で、地域を調べたり、地域の方に話を聞かせてもらうことができている。

後期への改善点

取組内容①

・引き続き教職員間で連携を図り、保護者との関係づくりや地域とのつながりを深めていく。

・「学校のきまり」を共通理解事項として把握し、教職員全員が同じ指導ができるようにしていく。

・スマホや SNS の使い方を含め、機会あるごとに継続して指導していく。

取組内容②

・年間指導計画に沿って、実施していく。

・PBS やピアサポートを活用し、思いやりや友だちを大切にする気持ちを高めていく。

・今後も、地域のことを調べたり、地域の方の話を聞く場を設ける。

（様式２）

大阪市立まつば小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○　小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント向上させる。 （昨年度結果　国語　４年：＋1.0　5年：＋0.8　6年：＋2.6 算数　４年：－1.4　5年：－1.3　6年：＋1.1　） ☞　未実施 ○　小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。（昨年度結果７６％）　☞　未実施 ○　小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。（昨年度結果７９％） ☞　未実施 ○　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。（昨年度結果７１％）　☞　未実施 ○　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。（昨年度結果８３％）　☞　未実施	―

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号４　誰一人取り残さない学力の向上】 全国・全市共通の調査に向けての取組を実施し、学力向上に向けて研究・研修に努め、実践に生かす。 指標 ・　校内研修、全体授業研究、若手教員研修を年間１２回以上実施し、若手教員の育成を図るとともに、教員全体としての指導力の向上に努める。 ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「学校の授業はわかる」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を４５％以上にする。 （昨年度結果は３９％）　☞　７月結果３７％ ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「自分の考えを伝え合う力が伸びている、友だちと話し合うのが好きだ」と肯定的にとらえる児童の割合を９０％以上にする。（昨年度結果は８９％）　☞　７月結果８６％ ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（保護者アンケート）において「学校は子どもの学力向上のため適切な取組を進めている」と肯定的にとらえる保護者の割合を９０％以上にする。（昨年度結果は８９％）　☞　７月結果９４．８％	C

取組内容②【基本的な方向番号５　健やかな体の育成】
　児童の健康・体力向上への意識を高める。

指標
・　児童の体つくり・体力向上に向けて、校内研修を年間２回以上行い、日々の体育科の授業に取り入れる。
・　学級で姿勢に関する指導に取り組むとともに、月に１回「せのびータイム」を実施し、令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「正しい姿勢で学習することは大切だと思う」と肯定的にとらえる児童の割合を９０％以上にする。（昨年度結果は９１％）
・　「外遊び週間」や「なわとび週間」、「耐寒かけ足」等の体力向上に特化した全校活動を学期に１回実施する。
・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学校生活アンケート）において「運動をするのが好きである」と肯定的にとらえる児童の割合を８５％以上にする。
（昨年度結果は８６％）　☞　**７月結果８５％**

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①
　全体授業研究や若手教員研修、校内研修を計画的に実施し、教職員の指導力向上に取り組めたり、梅南中学校との合同研修を実施し、小中連携の取り組みを進めることができたりした。教職員研修や授業研究を計画的に実施していることから、学力向上に向けた組織的な取り組みは進んでいると考えられる。
　「学校の授業はわかる」の肯定的回答は 82％であったが、最も肯定的な回答は 37％で、目標値には達しなかった。「自分の考えを伝え合う力が伸びている・友だちと話し合うのが好きだ」の肯定的回答は 86％で、こちらも目標値には達しなかった。
　肯定的な回答は多いものの、目標値には達しておらず、児童が十分な達成感や学習理解を実感できていない状況がうかがえる。また、基礎学力の定着が不十分な児童ほど、「授業がわかる」や「考えを伝え合う」といった項目の評価が低くなる傾向が見られるため、基礎・基本の定着を図る取り組みが必要である。
　保護者アンケートの「学校は子どもの学力向上のため適切な取組を進めている」の肯定的回答は 94.8％で、目標値を上回った。保護者からは学校の取り組みに対して高い評価を得ており、学校と家庭の連携の基盤ができている。

取組内容②
　体力向上に向けた校内研修会を実施し、研修内容を日々の体育科授業に生かすことで、体力向上に向けた指導の充実を図ることができている。また、1 学期には「おおなわタイム」、月１回のせのびータイムなどの取り組みを計画的に実施し、児童も意欲的に参加している。
　学校アンケートでは、「運動をするのが好きである」の肯定的回答が 85％となり、目標を上回る結果となった。休み時間に外遊びをする児童も多く、運動への意欲や習慣化が進んでいると考えられる。一方、「正しい姿勢で学習することは大切だと思う」の肯定的回答は 88％で目標には届かなかった。今後は、せのびータイムや発育測定時の指導に加え、日常の学習場面における継続的な声かけや姿勢指導を充実させる必要がある。

後期への改善点
取組内容① ・学校行事や会議等を整理する必要がある。 ・話し合い活動を多く取り入れる。 ・授業外（放課後）に段階に合った学習をする。 ・学習が「わかった」と思える手立て。 ・話し合い活動の議題や内容の充実。 ・授業中や休み時間中の友だちと過ごす中で、自分の気持ちを伝えることの大切さを指導していく。 ・ESD の時間の在り方についての再検討、ルールの徹底。 取組内容② ・体つくりと体力向上に向けて日々工夫して取り組む。 ・姿勢についての日々の意識付け。 ・せのびータイムを増やす。

（様式２）

大阪市立まつば小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 ○　小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週３回以上と回答する児童の割合を６７％以上にする。（昨年度結果６５％） ☞　未実施 ○　令和８（２０２６）年度末において、１か月あたりの平均時間外労働時間が月３０時間以下の教員の割合を７０％以上にする。（昨年度結果６８％） ○　年次有給休暇等を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上にする。 （昨年度結果８２％）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号６　教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 一人一台端末の環境を生かし、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用することで、子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け取り組む。 指標 ・　デジタル教材を活用した学習を週２回以上実施する。 ・　令和８（２０２６）年度末の校内調査（学習アンケート）において「パソコンを使った学習は楽しい」と肯定的にとらえる児童の割合を８８％以上にする。 （昨年度結果８８％）　☞　９１．８％	B
取組内容②【基本的な方向番号７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026－2029】」に基づき、これまでの取組を継続・発展させるとともに、教職員が貢献感とやりがいを感じられ、働きやすい職場環境を整備・工夫する。 指標 ・　ゆとりの日を週１回設定・実施するとともに、定時退庁日を月１回設定する。 ・　令和８（２０２６）年度末において、１か月あたりの平均時間外労働時間が月３０時間以下の教員の割合を７０％以上にする。（昨年度結果６８％） ☞　４～８月：８１％ ・　年次有給休暇等を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上にする。 （昨年度結果８２％）	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 各学級でデジタル教材を活用した学習が進められており、児童が身近になったパソコンを積極的に学習に活用する姿が見られる。特に「毎日の心の天気」など、日常的にパソコンを使用する機会が増えたことが、使用割合の増加につながったと考えられる。

取組内容②

ゆとりの日や定時退庁日の計画的な実施、管理職の声掛け等により、職員の退勤時刻が早くなり、遅くまで職員が残る雰囲気もなくなってきている。効率よく業務を進めるとともに、校務分掌を互いに補い合うなど、しなやかな組織づくりが進んでいる。

また、計画的に時間休を取得したり、定時に退勤したりする職員も増えている。今後も、夏季休業・冬季休業・春季休業等を活用した年次有給休暇の取得を促進し、職員がゆとりをもって働くことのできる職場づくりを進めていく。

後期への改善点

取組内容①

・今後も児童にとって身近なパソコンやデジタル教材を効果的に活用することで、学習への意欲を高め、主体的に学習に取り組むことにつなげていく。
・学年に合った学習者用端末を活かした取り組み内容の構築をしていく。
・学習者用端末の使用について、朝の時間等を使いデジタルドリルを行い、毎週使用できるようにする。
・引き続き授業内でパソコンを使って進めていき、年度末の目標が達成できるようにする。

取組内容②

・ゆとりの日や定時退庁日の定時退勤を引き続き進めていく。
・目標達成のために、働き方改革のさらなる働きかけを進めていく。